

## 民主主義の危機：大衆ポピュリズムの台頭にどう対応すべきか？

長久領吉（関西大学）2026/03/13-14

先の衆院選挙（2026年2月）の考察：理論的視点から．

### 1 中位投票者定理：中央値を選ぶべし．

例：消費税は何％にすべきか．

|     |    |    |     |     |     |     |     |
|-----|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 投票者 | A  | B  | C   | D   | E   | F   | G   |
| 税率  | 0% | 5% | 10% | 10% | 10% | 15% | 20% |

中央値は10%、これを選択するのが正しい。<sup>1</sup>

理由：対ごと比較で多数決をとると10%は他の税率に全て勝つため（前提：みな自分が一番いいと思っている税率に近い税率を好む）．

#### 1.1 今回の選挙では中央値が大きく右に偏った．

|       |                   |    |     |          |  |  |
|-------|-------------------|----|-----|----------|--|--|
| 衆院議席数 | 7+0+0+11+28       | 49 | 316 | 36+15+0  |  |  |
| 政党    | 共産党，れいわ，社民，みらい，国民 | 中道 | 自民  | 維新，参政，保守 |  |  |

自民が中央値になった!？．

なぜこうなったか？

中票投票定理の前提：他人の意見に流されない（独立意思決定）．

|     |    |    |     |     |     |     |     |
|-----|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 投票者 | A  | B  | C   | D   | E   | F   | G   |
| 税率  | 0% | 5% | 10% | 10% | 10% | 15% | 20% |

|     |    |    |     |     |     |     |     |
|-----|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 投票者 | A  | B  | C   | D   | E   | F   | G   |
| 税率  | 0% | 5% | 10% | 10% | 10% | 15% | 25% |

Gが自分の主張を通そうと、極端な主張をする（戦略操作）．

こうしても中央値は10%のまま．投票結果は変わらず．戦略操作は通用しない（耐戦略性）．

しかし、衆院選ではこの前提が崩れた．

中道改革連合の発足．支持者がより右の政党（自民など）に流れた．

<sup>1</sup>中位投票者定理に関しては Black(1948,1958) を参照．

|     |     |    |     |    |    |    |    |    |    |
|-----|-----|----|-----|----|----|----|----|----|----|
| 共産党 | れいわ | 社民 | みらい | 立憲 | 公明 | 自民 | 維新 | 参政 | 保守 |
|     |     |    |     | ↓  | ✓  |    |    |    |    |
| 共産党 | れいわ | 社民 | みらい | 中道 | -  | 自民 | 維新 | 参政 | 保守 |

公明が左へ動く（これは自民などが右へ動くのと同義）．有権者がその動きにひきずられたのでは？

ネット上の意見を見るとそれが窺える：

意見：「中道とは何？中途半端．ハッキリしない」

意見：「調整だけでは日本は変わらない．思い切ったことをしないと」

意見：「自民と手切れして，立憲と組むのは無節操」

雑感：

弁当のテイクアウトで御飯が大中小あれば，大抵の人は中を選ぶ．生活・人生において極端な選択はしないはず．政治も同じだと思うが．

改革を唱えた30年で何が変わった？いい加減目を覚ましなさい．

公明は穏健保守．これは変わらず．自民が右に寄ったので手を切って別のパートナー探すのは不思議ではない．これは公明だけの話ではな

い．集合離散を繰り返してきたのはどの政党も同じ．

## 1.2 争点の軸が定まらなると中央値も定義できない．実は争点 がなかった？

例えば，消費税は争点にならず．財源があいまいなままでのばらまき政策．有権者の判断が迷った？

消費税を争点にしないのは，国民に負担を求める政策では票が集められないため．

国民に負担を求めず，楽な解決方法を選ぶ．

例．アベノミクス（異次元金融緩和），責任ある積極財政，トランプ関税（悪いのは外国，アメリカ国民は悪くない）．

政治にこのような政策誘導をさせない制度設計が必要．

## 2 陪審定理：3人寄れば文殊の知恵，皆で考えれば 正しい決定になる．

裁判で有罪・無罪の判決を陪審員の多数決で決める．陪審員の数が増えるほど正しい判決が出る確率は1に近づく．<sup>2</sup>

仮定1．各陪審員が正しい判断をする確率は0.5より大きい．

<sup>2</sup>陪審定理は de Condorcet (1785) 参照．現代的定式化は Nitzan (2010). Sunstein and Hestie (2015) は一般向け解説．

仮定 2 . 各陪審員の判断は他の陪審員の判断には依存しない .

例 . 陪審員が正しい判断をする確率が 0.6 とする .

陪審員が 3 人の場合 , 正しい判断をする陪審員が 1 人以下の場合は大いにありうる . 多数決は正しい判決を導けない . しかし 1000 人いれば , このうち 600 人前後が常に正しい判断をするはず . 多数決が正しい判決を導く確率はほぼ 100% .

陪審定理は対数の弱法則とほぼ同値 :

対数の弱法則 : 標本の数が増えるに従って標本から導かれる統計値 ( 平均値 , 中央値 , 最頻値など ) は真の値に近づく .

標本 = 陪審員 , 統計値 =  $\frac{\text{正しい判断をする陪審員の数}}{\text{陪審員の数}} = 0.6$

では衆院選挙の結果は正しかったのか .

## 2.1 仮定 1 は成り立たない .

SNS などて誤情報が広がる . 有権者が正しい判断をする確率は 0.5 より小さくなった ?

仮定 1 は通常は問題ないと見做される :

陪審員の当初の確率は 0.5 ( 論拠不十分の原則から ) .

無罪の場合 : 証拠や証言が積み重なり , 陪審員が無罪とする確率が 0.5 より高くなる ( ベイズ更新 ) .

多数決で無罪が確定 ( 正しい判決となる ) .

ただし , 証拠や証言の捏造・隠ぺいがおこるとこの逆になる ( ベイズ更新の結果 , 陪審員が正しい判断をする確率が 0.5 より小さくなる ; 袴田事件 ) .

## 2.2 仮定 2 も怪しい .

威勢のいい主張 , 極端な主張の方が目立ち , そちらに皆引っ張られる ( 維新 , 賛成党など ) .

互いの意見が相関してしまうと陪審定理は成り立たない .

陪審員が 1000 人いても ,

ハシモトオル ( 有罪だ ! ) そうだ ! そうだ ! そうだ !

多数決しても , これでは一人の陪審員の判断と変わらない .

## 2.3 陪審定理の隠れた前提その 1

アジェンダは陪審員の利害と直接かかわらない . 陪審員は中立的立場から判断できる . 例 : 被告の母親が陪審員になることはあり得ない .

政治ではこの前提は難しい . 社会保障をどうするかは利害が絡む .

## 2.4 陪審定理の隠れた前提その2

争点があきらかにしている。問題が簡単で誰でも理解できる。ペーパーテストのように正しい・間違いの選択が可能。

政治ではこの前提も難しい。争点が多岐にわたる・曖昧である。従って簡単に誰でも理解できるわけではない。価値判断が絡み、正しい・間違いが簡単につけられるわけではない。

例：経済成長のためには積極財政が必要かどうか（正しい・間違いは原理的には明らかにできる）。経済成長がよいか、価値判断。正しい・間違いは言えない。

## 3 3. 選挙制度の改訂，政党と有権者に望むこと。

### 3.1 アジェンダごとに投票制度を変える。

現行の地域ごとの小選挙区制では地域の利益を代表する政治家しか出てこない。政党も地域の利益だけを政策に掲げざるを得ない。

参院選挙は比例のみにする：agenda も環境問題，外交国防，財政の持続性など長期的視点から取り組むべき問題のみにする。

agenda の策定は政治家に任せず，第3者機関（民間団体）で決める。争点外しをさせない。

### 3.2 政党に望むこと。

silent majority の意見を汲み取る努力を。情報社会となり，国民が何を望んでいるかを net などを駆使してつかめる筈。企業は市場調査をして消費者のニーズを掴む。同じことを政党もやるべし。この取り組みは国民民主やチームみらいが一部実践している。

### 3.3 有権者に望むこと。

難しく考える必要はない。しかし自分で考える必要はある。今までの人生で培ってきた経験で判断すればよろし。

「与党の政策は全て間違い。自分たちが正しい」

「今まで 100% 間違った政策をしてきて，なんで GDP 第3位になれるの？ 相手が全部間違っていて自分が全部正しいなんてあり得ない。大抵はどちらも 50% ただしくて 50% まちがだよ」

「あなたたちは悪くない。悪いのはあいつらだ」

「勧善懲悪の時代劇ではあるまいし。世の中そんなに単純じゃありません」  
言葉ではなく，言動を見る。

辻立ちの野田：毎日、駅前に立つ。立憲壊滅の中で小選挙区で勝ったのはある意味凄い。野田さんのこの姿勢を見て票を入れようとする有権者は多いと思う。SNSで威勢のいい子というのは誰でもできる。言葉より行動。

田中元首相（握手の数が票の数）、シュワルツネッカーカリフォルニア州知事（握手は1日2000回以上したとか。さすがはターミネーター。演説中に生卵を額に投げつけられたとき。「ベーコンも投げてくれたらよかったのに」。この余裕ある発言で彼の人柄がわかる。

片山虎之助（自民党）民主党旋風が吹いたとき。岡山選挙区で落選。TVのインタビュワーに感想を聞かれたとき。「私の不徳の致すところですよ、カメラに向かってお辞儀。この人は人間としては信頼できる人だと直観した。人間負けた時の態度に人格の高潔さが現れる。

## 4 雑感

かくゆう私は、今回は小選挙区は自民 vs 維新で自民に入れました。自民がいいというわけではなく、維新は嫌い。文化事業や学校教育の予算は削り、カジノは作るという品のなさが我慢できない。金にならない物は価値がないと言わんばかり。学術文化に携わる者から見て敵です。

比例はチームみらい。大学で若い人たちを指導しており、若い人たちを応援してやろうと考えました。デジタル技術を使っただけの政治のアップデートは私の主張と重なります。分断をあおらないという姿勢も立派。消費税は下げずに社会保険料を見直すという政策も非常に良い。チームみらいが政権与党になることは考えづらいですが、彼らの考えを是非既存政党も取り入れてほしいです。

## 参考文献

- [1] Black, D. (1948). On the rationale of group decision making. *Journal of Political Economy*, 56(1),23-34.
- [2] Black, D. (1958). *The theory of committees and elections*. Cambridge University Press.
- [3] de Condorcet, M. J. A. (1785). *Essai sur l'application de l'analyse de la probabilit  des d 馵 isions rendues de la pluralit  des voix*.L'Imprimerie royale.
- [4] Nitzan, S. (2010). *Collective preferences and choice*. Cambridge University Press.

- [5] Sunstein, C. R., & Hestie, R. (2015). *Wiser: Getting beyond groupthink to make groups smarter*. Harvard Business Review Press

以上